

Interview



御船地区交通安全協会
にしぐち としかず
西口 俊一 会長 (小峯)

余裕をもった行動、 そして運転を

春の「黄色い傘贈呈式」、夏の「七夕出発式」など御船警察署管内全域で交通安全の啓発に努めています。

「黄色い傘」は、雨の日に子どもたちが目立つよう配色されたもので、一部が透明になっていて、そこから前の状況が確認できるようにになっています。

七夕出発式では、運転中のドライバーに一旦停止してもらい、交通安全のチラシを手渡しするという啓発運動です。年間を通して交通安全運動を行っています。一番大切なことは、時間に余裕を持つことです。10分違うだけで気持ちが大きく変わり、余裕を持って周囲の状況を把握できるはずです。

事故から子どもを守るための心構え

小さいから見えにくい。

公園付近や通学路は要注意。

子どもが道路を横断する時に、手を挙げるのは、自分を発見してもらうため。小さい子どもがいそうな場所は用心するくらいがちょうどよい。

子どもの動きは予想しづらい。

なら、スピードを緩めよう。

「危ないな」を予想することが運転の基本。しかし、中には予想が難しいものもあるはず。子どもの行動は大人が思っているより突然で複雑だ。

登下校の時間は大人も急ぐ時間。

落ち着くことが事故予防に。

通学路は交通量が少ない道を選ぶことが多いが、車が通ることには変わらない。急いでいる時は通りたくなる道だからこそ、気を付けよう。

黄色い傘を見たら、
スピードを落してね！



取材を終えて



車を運転することはごく日常のことだが、ひとたび交通事故を起こせば、それは非常態になってしまう。ドライバーは、常に高いリスクとなり合わせでハンドルを握っているのだ。事故で得られるものは何もなく、加害者も被害者も、何かを必ず失う。それは時間であったり、お金であったりするが、最悪の場合、自分や人の命を失ってしまう。一瞬の出来事で人生が一変してしまうのだ。歩行者がどんなに気を付けていても、痛ましい死亡事故が全国で相次いでいる。このようなニュースをテレビで見かけるたびに心が締め付けられるような思いだ。被害にあって亡くなった人の、これから先あったであろう人生を考えると、いいようのない寂しさが湧いてくる。加害者の人生もまた同様だ。

「このような悲しい事故を少しでも減らしたい」と思い、今回の特集を組むことにした。

心がけや、考え方次第で事故は未然に防ぐことができる。

いつもハンドルを持つあなたのすぐ近くには、かけがえのない命があることを忘れないでほしい。